

下肢静脈瘤の 最新治療

身体的負担が少ない、最新の治療法＝血管内治療法

下肢静脈瘤に対する血管内治療とは、針を刺入してカテーテルを病変静脈内に挿入し、高周波やレーザーにより熱を発生させて、血管内から静脈を焼灼・閉塞させる治療です。

この治療法では、カテーテルを挿入するだけで治療ができ、原則として針の刺し傷のみしか残りません。



血管内治療の実際

手順は以下の通りです。

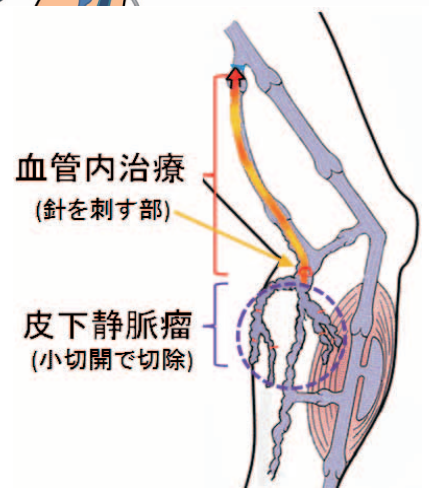
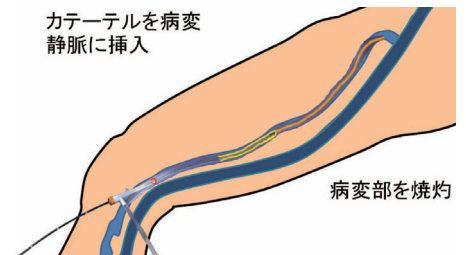
- ① 超音波で見ながら下腿部の病変静脈に針を刺して、専用のカテーテルを挿入
- ② 病変血管を120℃で焼灼(焼灼時間はコンピュータ制御)します。

これだけです。

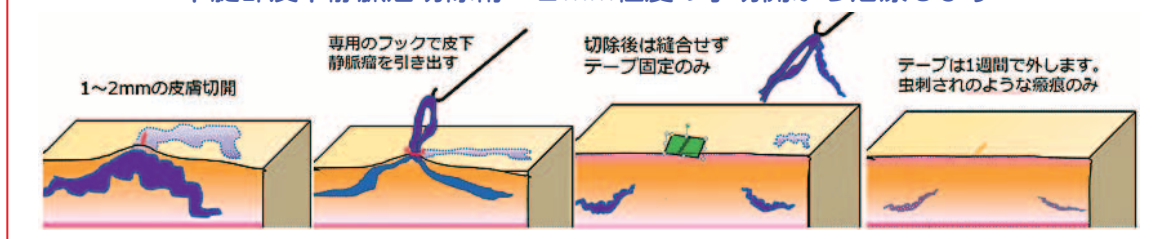
この治療法では、原則はカテーテルを挿入するだけで治療ができ、針の刺し傷のみで治療ができます。

しかし、実際は下腿部に皮下の静脈瘤が残って目立つため、同時に、下腿部の皮下静脈瘤切除術を併用します。

この2種の手術を組み合わせることで治療することが、新しいスタンダードになりつつあります。



** 下腿部皮下静脈瘤切除術～2mm程度の小切開から治療します **



もっと詳しく… よくある質問！？

Q すべての下肢静脈瘤は手術しなければいけませんか？

A 下肢静脈瘤は、原則は急いで治療する必要はありません。疾患の進行度は超音波検査と自覚症状で判断します。当院では、症状が進んで、つらくなったら（ご希望があれば）手術しましょうと説明しています。

Q レーザー治療とは違うのですか？

A 血管内治療法とは、病変静脈を血管内から焼灼する治療法の総称です。その熱源がレーザーか高周波かという方法による違いだけで、**同じもの**と考えてよいです。

Q 保険は適応できますか？

A 高周波による血管内治療は最も新しく**2014年6月より保険適応**となりました。

Q 術後の安静度について教えてください？

A 当院では、**当日より、トイレ歩行など日常生活程度の活動が可能**です。
以下のような安静度を設定しています。目安となさってください。

生活内容	開始時期
家事、日常生活	手術当日から
車の運転・事務系の仕事	手術翌日から
シャワー	手術2日後から
肉体労働・立ち仕事・自転車に乗る・正座	手術3日後から
入浴	手術7日後から
温泉・プール	手術10～14日後から
旅行・スポーツ・サウナ	手術14日後から

Q 痛みはありますか？

A 伝達麻酔・局所麻酔を行います。**麻酔の注射は少し痛い**です。
術後の痛みは少なく、当日より歩行可能です。

Q 入院は必要ですか？

A 当院では安全のために、以下のような**一泊入院**をお願いしています。

当日：朝入院・手術 ➔ 翌日：超音波検査で血管状態を確認後に退院

私が治療しています

月野 暁彦 皮膚・形成外科部長

日本形成外科学会形成外科専門医